

彼方「かなた」

校長通信
H30.6.25
Vol. 9

【進路保護者会で伝えたかったこと！】



小学校と中学校の決定的な違いは、出口です。中学校を卒業する時は、一人一人が違った進路を選択し、決定し、進んでいかなければなりません。その進路決定に長い期間関わってきました。そんな中で、二者面談や三者面談、保護者の

の皆さんとのやり取りを通して、ずっと感じていることがあります。それは、進路実現に向かう時の言葉かけや応援の仕方についてです。黙っていても自分の進路に向けて一生懸命取り組む子といつまでもつてもなかなか進路に向き合えない子がいます。どこにその違いがあるのかをずっと考えてきました。言葉かけや激励の仕方の違いについて例示ながらよりよい関わり方について考えていきたいと思います。

①「怒鳴って励ます」：「何度言ったらわかるの？いつまでも携帯なんかいじってないで、少しはちゃんと勉強でもすれば！いい加減自分の進路ぐらいいちちゃんと考えてくれる？」

②「疑って励ます」：「ちゃんとやるって言って、ちっともやらないじゃない。どうせまた勉強したふりしてラインでもやるんでしょ。」

③「否定して励ます」：「少し上がったぐらいで安心しないでね！元がダメなんだから」

④「悪いレッテルを貼って励ます」：「あんた本当にバカね。こんなのもできないの？」

⑤「比較して励ます」：「お兄ちゃんは去年の今頃一生懸命頑張っていたのに、お前は何をやってるの？」

⑥「ガツカリして励ます」：「どうせ自分の進路なんだから好きにすれば！はあ、本当にどうしようもない。」

⑦「不安がって励ます」：「本当に大丈夫なの？英語の成績全然上がらないけど。」

⑧「代わって励ます」：「この子は、国語が苦手だからどうやって勉強したらいいかわからないのよね。」

⑨「脅して励ます」：「こんなレベルでやってるなら就職してもらってからね。」

この中で絶対にやってはいけないのは、人格否定するような声掛けです。③や④のようにダメなレッテルを貼ってしまうとそれに近づくように潜在意識が働き、行動化してしまうので、できるだけ前向きな言葉を発することが大切です。「勉強しないと、高校行けないよ。」というダブル否定を「勉強すれば、高校行けるよ。」というように少し変えるだけで前向きな言葉に変わります。「小さな変化を見つけて心に留め、相手に伝える」ことが大切なのです。これが「事実を認める」「誉める」「称賛する」ということにつながります。期待され、具体的に改善を図る目標を設定し、取り組み、認められ、評価されれば、行動化しやすくなるものです。

例えば高校見学に行き、「この学校で四月から高校

生活を送るんだ！」というゴールのいいイメージを持たせ、「お前なら大丈夫！頑張り屋さんだから必ずできると信じてるよ！」と魔法の言葉で期待し、実力テスト等の結果を見て、改善点を分析し、具体的に取り組み、「ここまで頑張れたんだからすごいと思うよ。」とプロセスを認め、結果が上向いたら「よくこの問題が解けたね！驚いた。」とIメッセージで伝え、「この先はどうするの？」と質問することで、頭を使わせ、「時間内で終わらせる！順位をあげる！」という具体的な目標を立てさせ、「大丈夫！絶対やれる！自分を信じろ！」強い言葉で激励し、本気で応援する前向きな言葉を笑顔で届けなければいけません。少なからず、前半に例示した言葉よりも後半のアイテムを使った方がやる気も湧き、行動化するようになります。

「やる気が出ない」「いつになったらやる気になるの？」といった言葉がよく聞かれます。「やる気」は、目標に向けて今を変えようとしているときに表れます。目標を設定するためには、「今を変えたい」という強い気持ちが必要です。「やる気」を出しても昨日と同じことをやっていたのではすぐにやる気が失せてしまいます。目標に向けて少しでも「変化をつくる」ことが「やる気」を引き出すポイントだと思います。だからこそ来年の4月に自分が立っているゴールをより具体的にイメージすることが大切なのです！

